

令和6年度和歌山県文化賞

まつざわ ゆうじ
松澤 佑次

住 所 兵庫県宝塚市
出身地 和歌山県田辺市
生 年 昭和16年

◎ 業績及び経歴

昭和16年田辺市に生まれる。昭和41年大阪大学医学部を卒業後、臨床研修を経て大阪大学第二内科に入局し、内科学の研鑽と医学生・研究生の指導に勤しむとともに、糖・脂質代謝を中心とした内分泌代謝学研究、生活習慣病対策をライフワークとして続ける決意を固めた。以後、同大学にて第二内科講師、第二内科主任教授、医学部付属病院長を歴任。研究面では、生活習慣病の大きな要因であると考えられる肥満の意義を明らかにするために、1980年代に、当時普及し始めたCTスキャンにより全身の脂肪組織の分析を行い、皮下脂肪ではなく、腹腔内脂肪（内臓脂肪）の蓄積が多く、生活習慣病や心血管病の原因になっていることを突き止めた。そのメカニズムを解明するために、大阪大学細胞工学センターのグループと脂肪細胞の遺伝子解析の共同研究を行い、単に過剰エネルギー備蓄細胞と考えられていた脂肪細胞が体をコントロールする多彩な生理活性物質（後にアディポサイトカインと名付けられる）を分泌する内分泌細胞であることを明らかにし、その分泌異常が生活習慣病の発症と関係するアディポサイトカインの概念を提唱。その間、抗糖尿病作用、抗動脈硬化作用などを持つアディポネクチンを発見し、内臓脂肪蓄積によるアディポネクチンの合成低下が生活習慣病発症の要因になることを明らかにした。平成12年には、日本肥満学会理事長として、外国より高度肥満が少ないながら肥満に関連する糖尿病、脂質異常、高血圧の頻度が多いわが国に適合する肥満症の概念と診断基準を発表。平成15年には、メタボリックシンドロームの概念と診断基準を発表。生活習慣の改善によってその減量を目指すわかりやすい対策は国の健康政策に取り入れられ、平成20年から特定健診として実施されるなど社会に広く浸透している。

メタボリックシンドロームの提唱とアディポネクチンの発見など、基礎医学・臨床医学の両分野において世界的な業績を挙げられた氏の功績は、本県の誇りである。

■ 現 在

- ・一般財団法人住友病院名誉院長・最高顧問
- ・大阪大学名誉教授

◆ 主な表彰歴等

- 平成12年 第1回日本動脈硬化学会賞
- 平成12年 日本医師会医学賞
- 平成13年 2001年度（第38回）エルウィン・フォン・ベルツ賞（1等賞）
- 平成14年 日本糖尿病合併症学会学会賞
Expert Investigator Award
- 平成16年 武田医学賞
- 平成16年 井村臨床医学賞
- 平成17年 日本肥満学会賞
- 平成17年 13th Dr. Mohan's DSC
Gold Medal Oration
- 平成18年 国際肥満学会 Willendorf賞
（最高学術賞）
- 平成18年 紫綬褒章
- 平成20年 日本内分泌学会マイスター賞
- 平成20年 日本糖尿病合併症学会
Distinguished Investigator
Award
- 平成20年 Jean Vague/Per Bjontorp
Memorial Award
- 平成27年 瑞宝中綬章
- 令和2年 第4回早石修記念賞
- 令和2年 第25回安藤百福賞 大賞